

2. 授業評価アンケート調査結果

人間科学研究科では、平成16年度より、毎学期末に授業評価アンケートを実施することとしている。平成18年度は前学期7～8月、および、後学期1～2月に、全科目全受講学生を対象として実施している。有効回収数は前期が2467名、後期が2165名であり、その内訳は以下の表（表1および表2）に示す通りである。

表1 前学期提出者数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入	合計
院科目	72	58	36	12	2		16	196
学部演習	25	33	19	9	3		9	98
実験実習	258	344	126	62	105	126	389	1,410
卒業研究	172	328	92	47	45	14	65	763
合計	527	763	273	130	155	140	479	2,467

表2 後学期提出者数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入	合計
院科目	145	50	31	245	52	6	22	551
学部演習	41	13	6	22	1		5	88
学部講義	272	250	73	262	117	88	251	1,313
実験実習	61	48	19	38			4	170
卒業演習	23	6	1	11	2			43
合計	542	367	130	578	172	94	282	2,165

この授業評価アンケートでは、授業の満足度、受講を決めた理由、授業環境などが、毎回ほぼ定型の質問文により尋ねられている。回収されたデータは数値化して集計されているが、それぞれの担当講師に対するコメントや要望も同時に自由記述により記入・回収され、個別の授業の改善に役立てられている。

以下、数値化されたデータから重要と思われるポイントについて、集計結果をグラフによって示す。

① 授業環境について

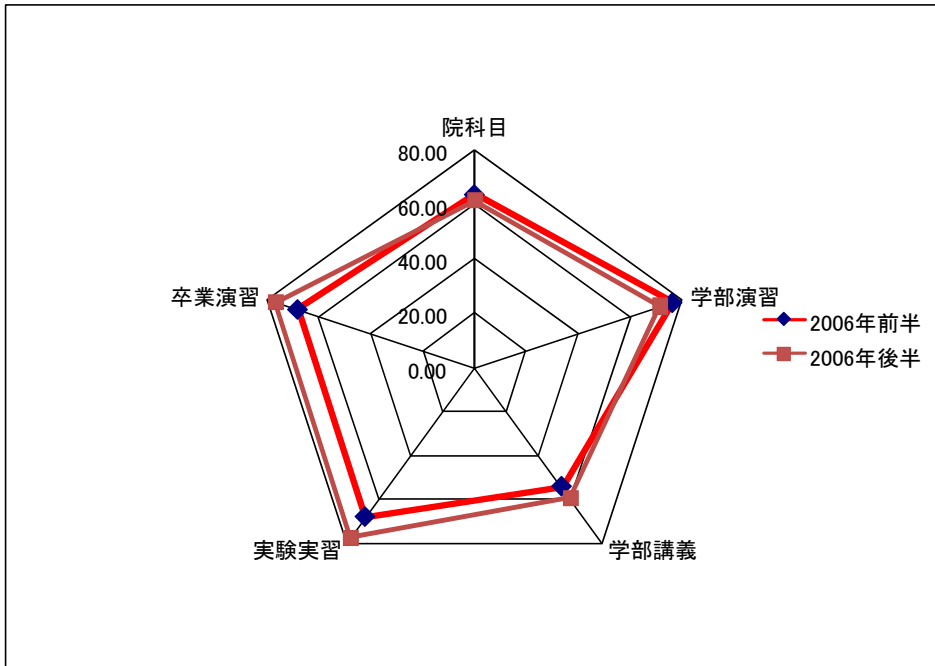


図 1 「授業環境に問題なし」の回答の科目形態別比較 (%)

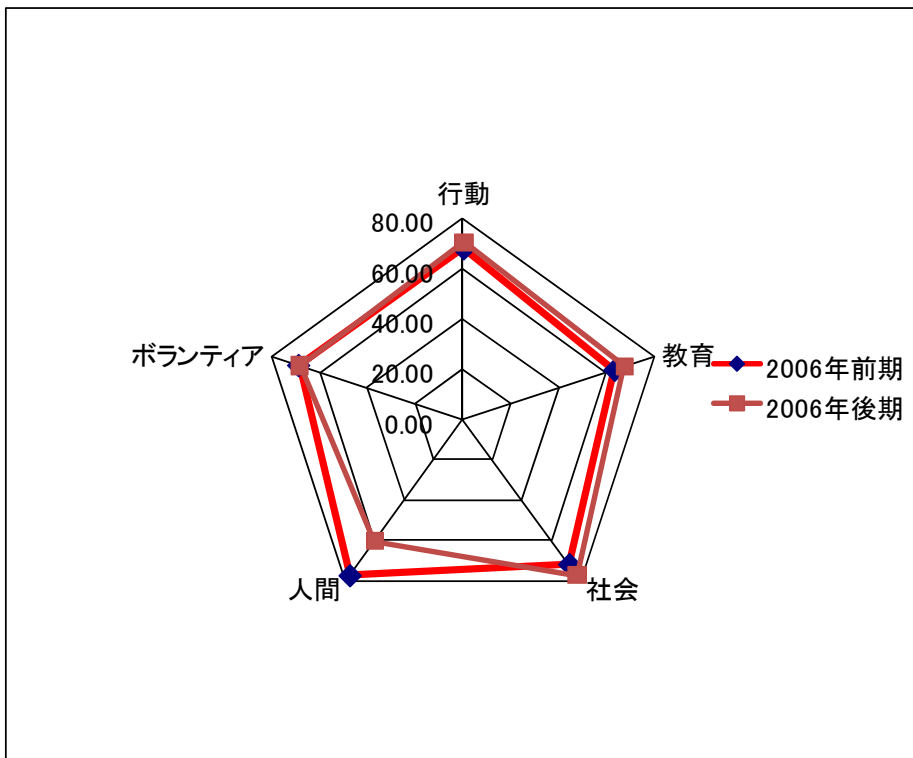


図 2 「授業環境に問題なし」の回答の科目形態別比較 (%)

図 1、図 2は授業環境に関する学生の評価結果である。授業環境については全体として大きな問題はないと思われるが、前後期での比較では人間科目で問題なしとする比率が低くなっている。

表 3 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（2006 年前期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題無	67.74	63.04	71.43	76.92	69.03	35.00	36.95
マイク	3.23	1.57	2.20	1.54	3.23	20.00	20.67
モニタ	6.83	9.70	4.03	1.54	5.16	20.00	15.66
照明	1.52	0.13	0.00	0.00	1.94	2.86	1.25
教室サイズ	2.47	4.06	4.03	4.62	5.16	13.57	12.73
椅子机	1.14	1.44	1.83	1.54	1.29	3.57	6.68
室温	8.16	5.11	5.13	2.31	2.58	20.00	23.38
騒音	0.19	0.13	0.37	0.00	2.58	2.86	0.84
私語	0.38	1.18	1.10	0.00	0.00	5.71	4.38
携帯電話	0.19	0.00	0.37	0.00	0.00	1.43	0.00
人数	484	659	247	115	141	175	587

表 4 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（2006 年後期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題無	70.30	67.30	76.92	60.38	68.60	38.30	42.20
マイク	0.74	1.63	0.77	1.04	0.58	4.26	2.48
モニタ	2.95	7.36	1.54	13.67	4.65	9.57	6.03
照明	2.58	1.63	0.00	0.87	0.00	1.06	1.06
教室サイズ	1.11	3.00	0.77	1.73	1.74	40.43	28.72
椅子机	1.29	1.91	1.54	0.87	1.16	7.45	12.06
室温	5.90	4.36	1.54	5.02	2.91	21.28	17.38
騒音	0.92	2.45	0.00	0.52	1.74	0.00	1.77
私語	0.18	1.09	0.00	0.00	0.58	3.19	2.84
携帯電話	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.71
人数	466	333	108	486	141	118	325

表 3, 4 は授業環境についての学生の要望を所属系別に示したものである。前後期を比較すると、人間系に所属する学生のモニタについての改善要望と、その他および無記入学生の教室サイズについての要望の増加が目立っている。授業環境の整備を検討する必要があると考えられる。

② 授業選択理由について

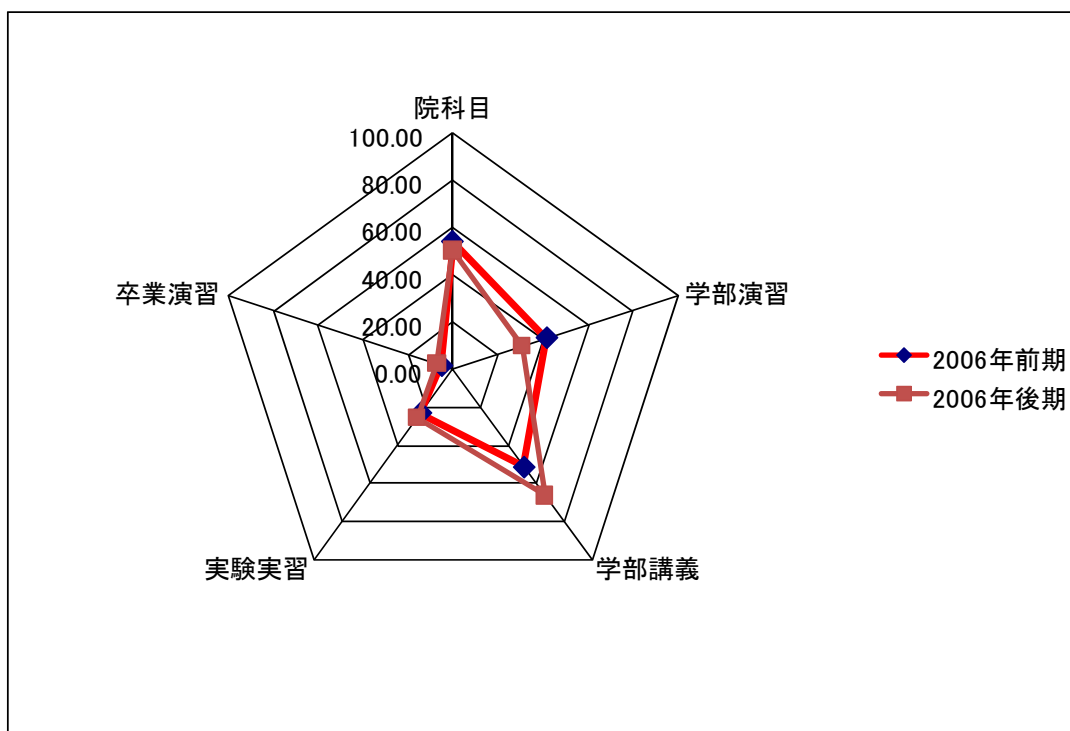


図3 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の授業形態別比較 (%)

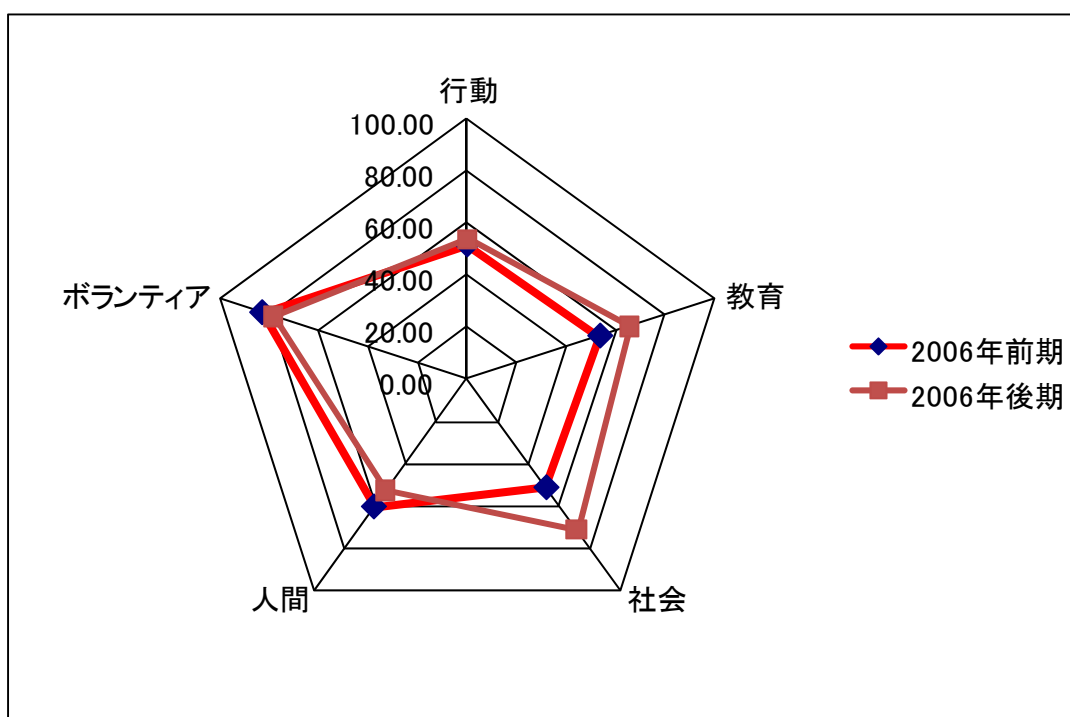


図4 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の学系間比較 (%)

図3、図4はシラバスが有効に利用されているかどうかを示すために、受講を決めた理由として「シラバスに興味を持った」という項目が選択された率を示したものである。グラフを見ると、学部講義・院科目についてはシラバスが有効に利用されていることがわか

る。学系間の比較では、ボランティア人間学系においてシラバスが有効利用されていることがわかる。

また前後期の比較では学部講義においてシラバスで興味を持って選択した率が高くなり、また学系では社会系と教育系で、シラバスで興味を持って選択した率が高くなっている。

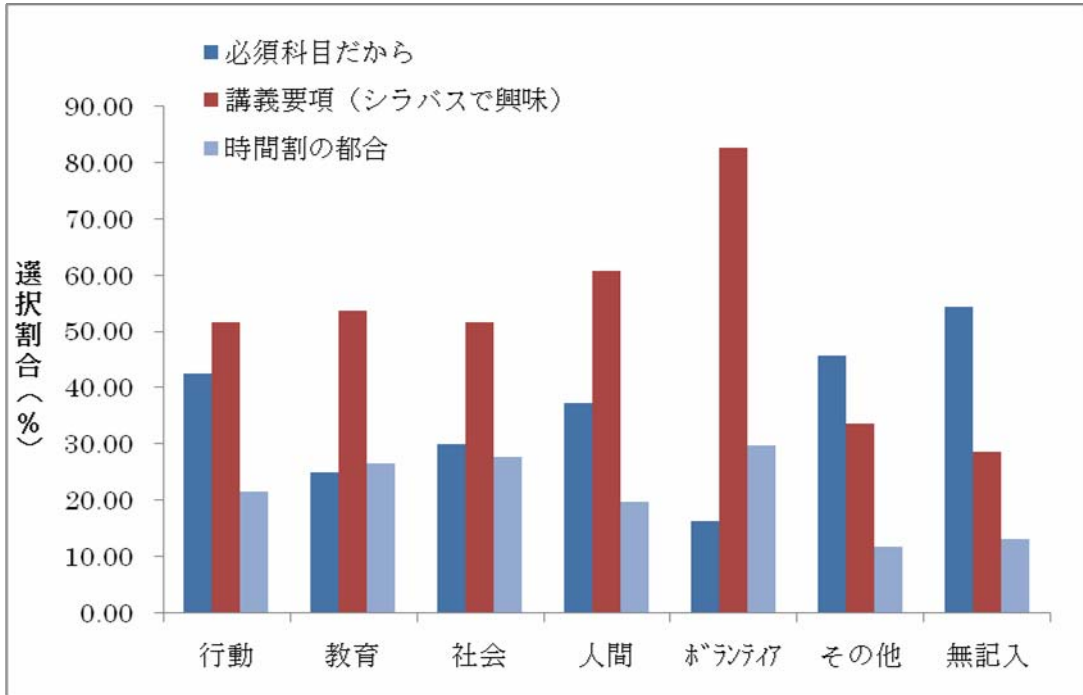


図 5 授業選択理由の学系間比較 (2006 年前期)

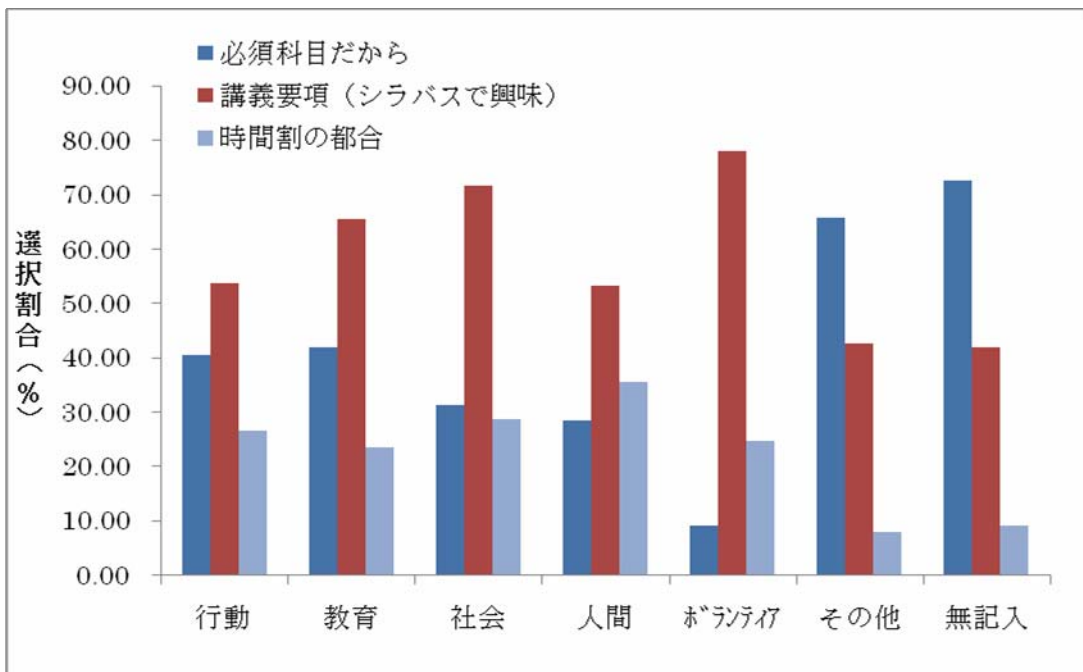


図 6 授業選択理由の学系間比較 (2006 年後期)

図 5、図 6は授業選択理由に対する学系別の結果のうち「必修科目だから」「講義要項 (シラバスで興味)」「時間割の都合」のみを取り出し図示したものである。前後期とも、ボラ

ンティア人間学系で、シラバスで興味を引かれ受講したと答える割合が高い。また、後期は全体にシラバスで興味をひかれたという回答が多くなっている。また、必修科目だからという選択理由を挙げる割合に学系間で差が見られることが特徴的である。なお、どの学系でも時間割の都合で選択したという回答が20～30%みられるが、時間割編成を検討する際の材料にすべき点であるかもしれない。

③ 授業の満足度について

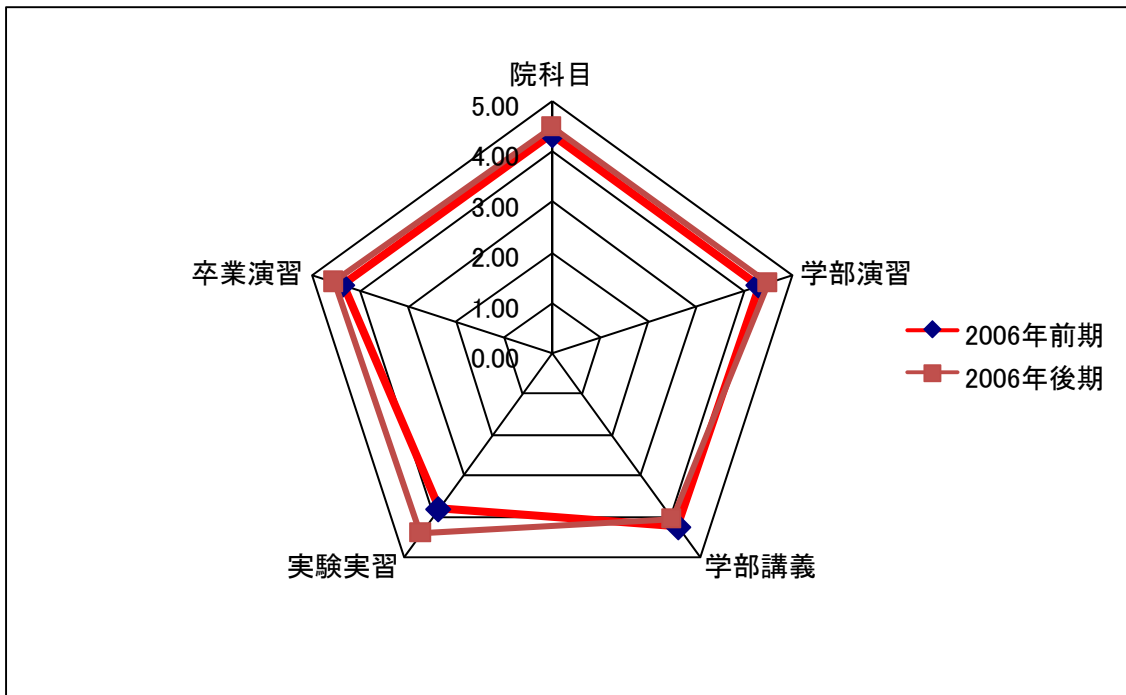


図 7 総合満足度の授業形態別の比較 (平均得点)

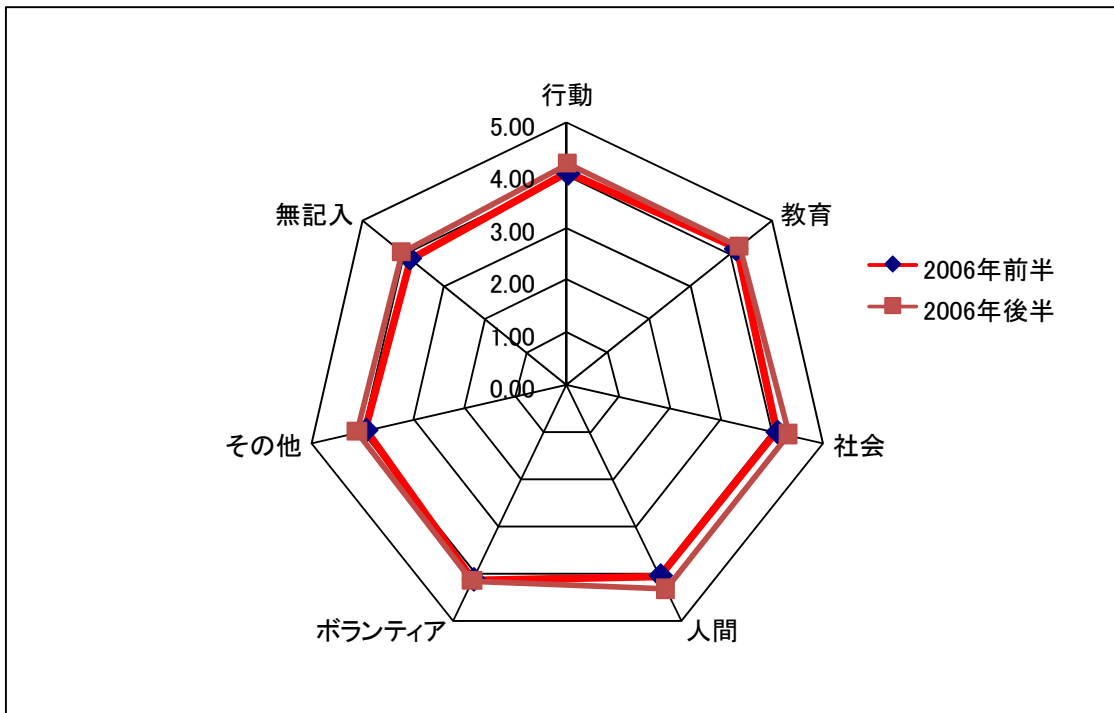


図 8 総合満足度の学系別の比較 (平均得点)

図 7、図 8は授業の満足度について結果を見たものである。前後期での差は全体としてはわずかだが、後期で実験実習の満足度が上昇している。学系間での差はほとんどない。

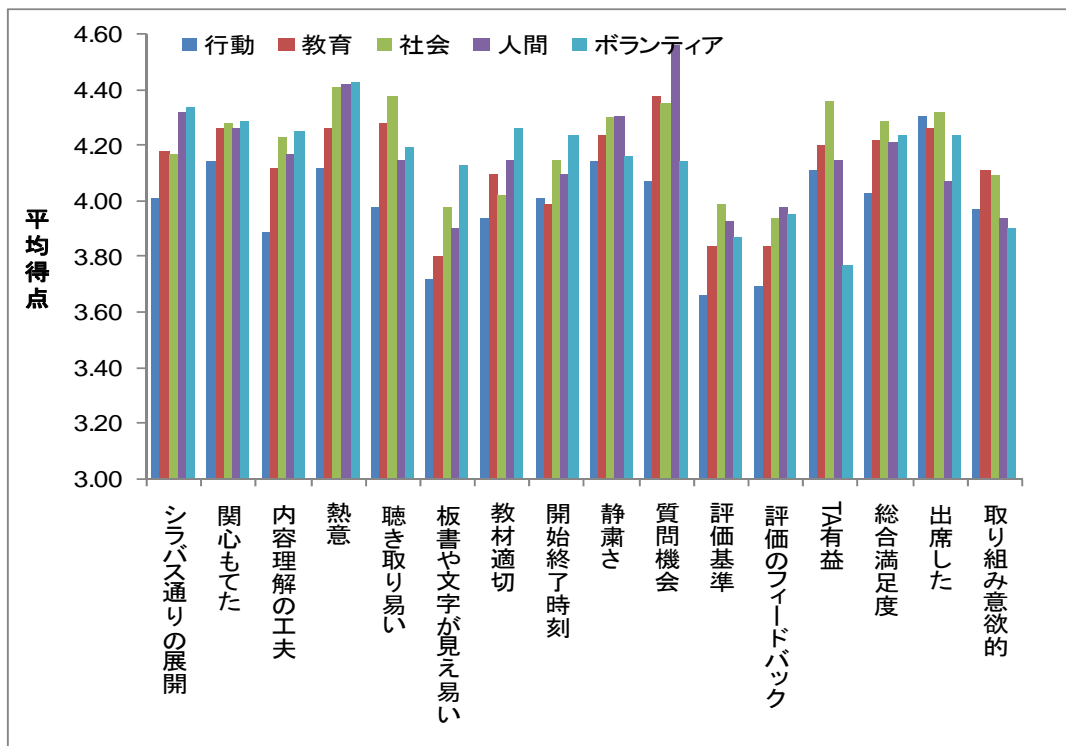


図 9 自分が所属する学系の科目に対する評価 (2006 年前半)

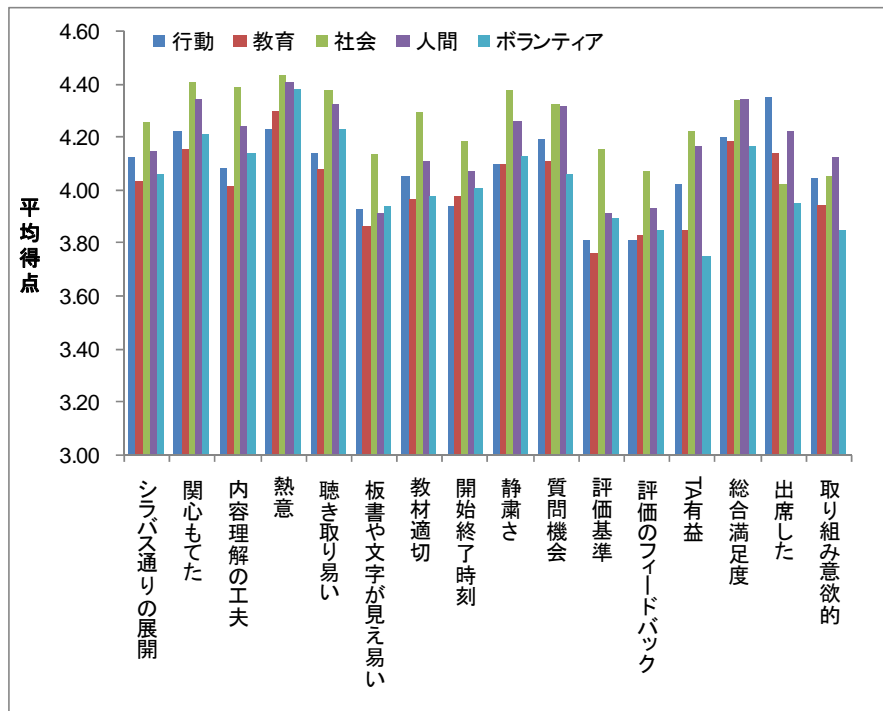


図 10 自分の所属する学系の科目に対する評価 (2006 年後半)

図 9、図 10は、各学系に所属する学生が、自分の所属している学系の科目に対してどのような評価をしているかを見たものである（得点が高いほど肯定的評価を意味している）。評価項目により学系間で若干の差異が認められるため、各学系では所属する学生の要望を検討し、相対的に評価の低い項目については重点的に対策を検討するべきである。また、前後期での各項目の得点の変化の大きさに注目すると、変化の幅は最大で 0.3 となっている。得点が比較的大きく減少した項目については注意が必要である。

④ 総合満足度の比較

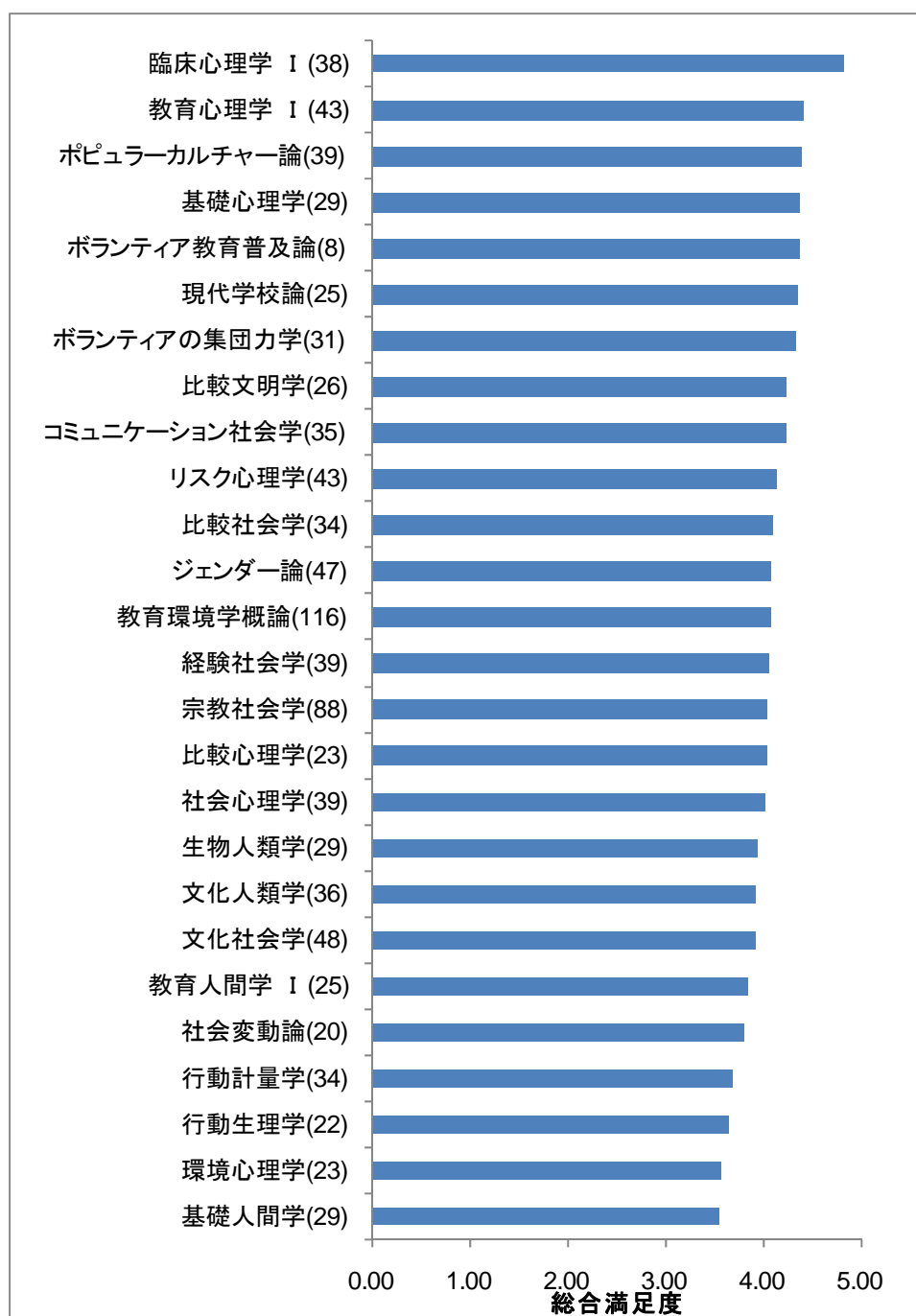


図 11 学部講義科目の満足度の比較 (受講生が20名以上)

学部科目

図 11に、学部講義課目 (受講者が20名以上の科目のみ) に関する満足度を示す。得点が高いほど満足であることを意味している。昨年度の評価書では不満足度を算出していたため得点が高いほど不満であることを意味していたが、今年度は逆であることを留意していただきたい。なお、科目横のカッコ内の数字は受講者数を示す。

講義課目で4以上の評価となった科目は、臨床心理学 I から社会心理学までの17科目であった。このうち、教育学科目が3、行動学科目が4、社会学科目が6、ボランティア人間学科目が2、人間学科目が1、共通科目が1であった。

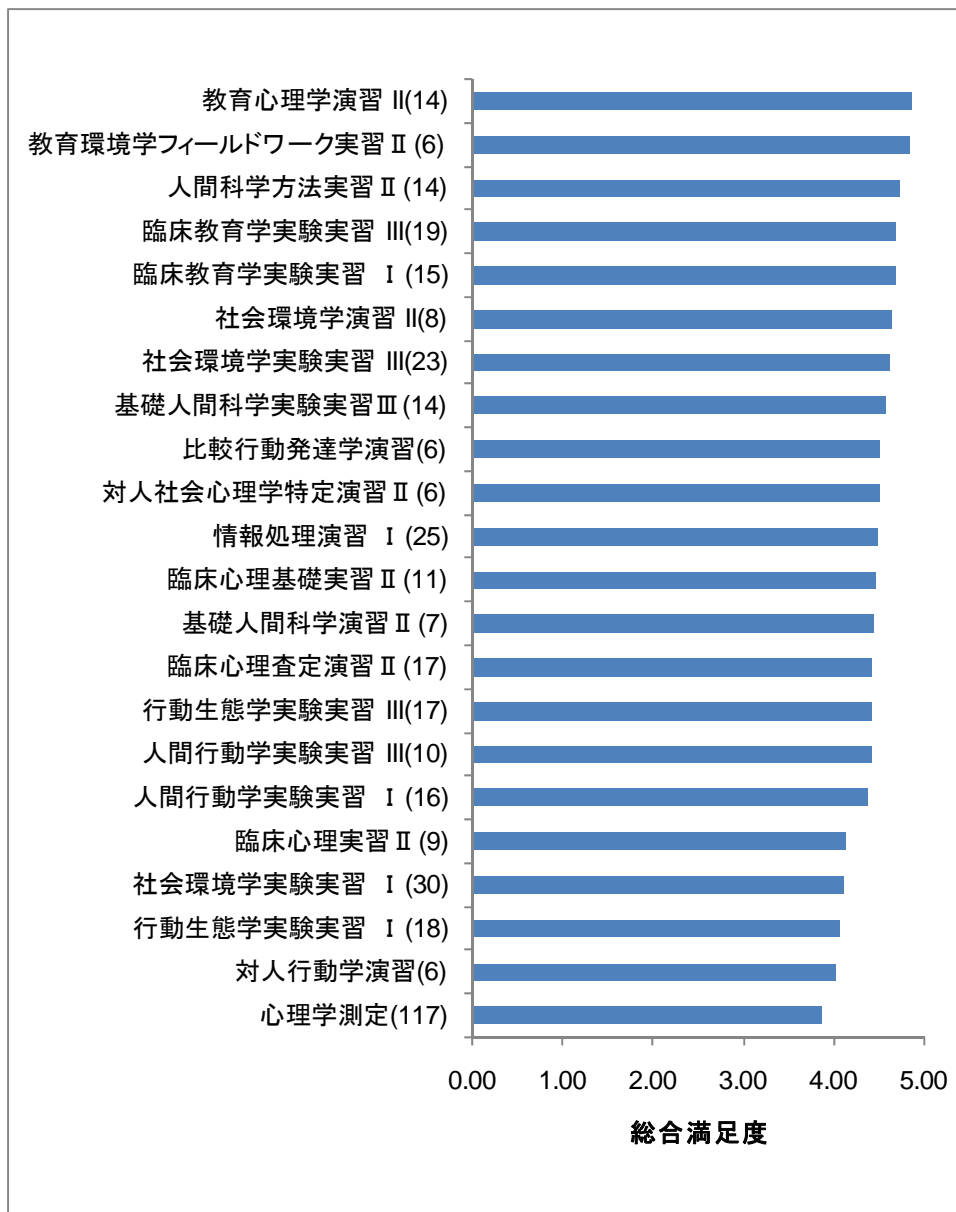


図 12 学部演習・実習科目の満足度の比較（受講生が5名以上）

図 12に、学部演習・実習科目（受講者が5名以上の科目のみ）に関する満足度を示す。いずれも満足度が高い。演習・実習科目が講義科目と大きく異なっている点は、少人数で経験・実践を行うという密度の高さである、この特徴が学生のコミットメントを高め、満足度を高めることにつながっていると考えられる。

大学院科目

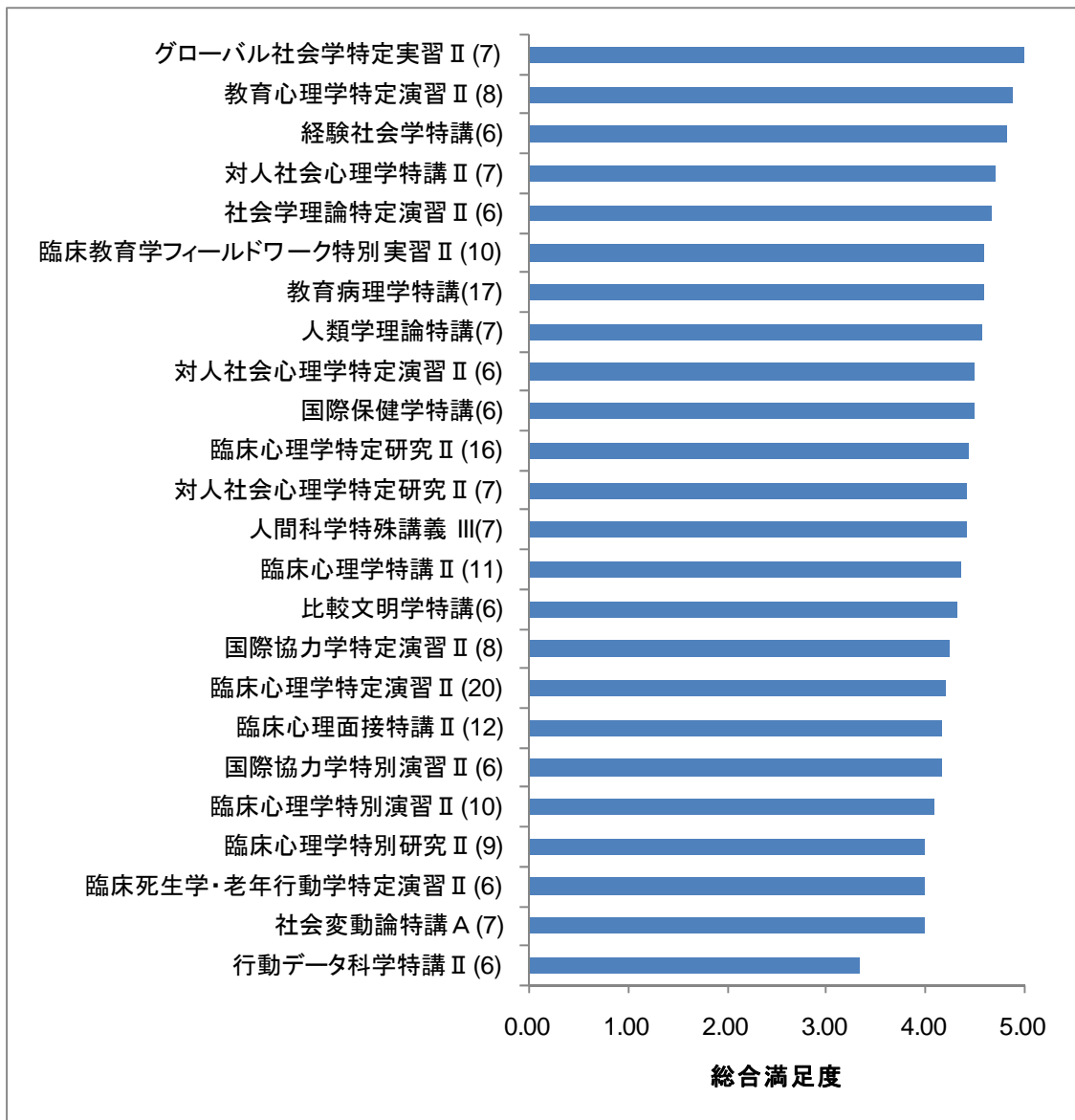


図 13 大学院科目の満足度の比較（受講生が5名以上）

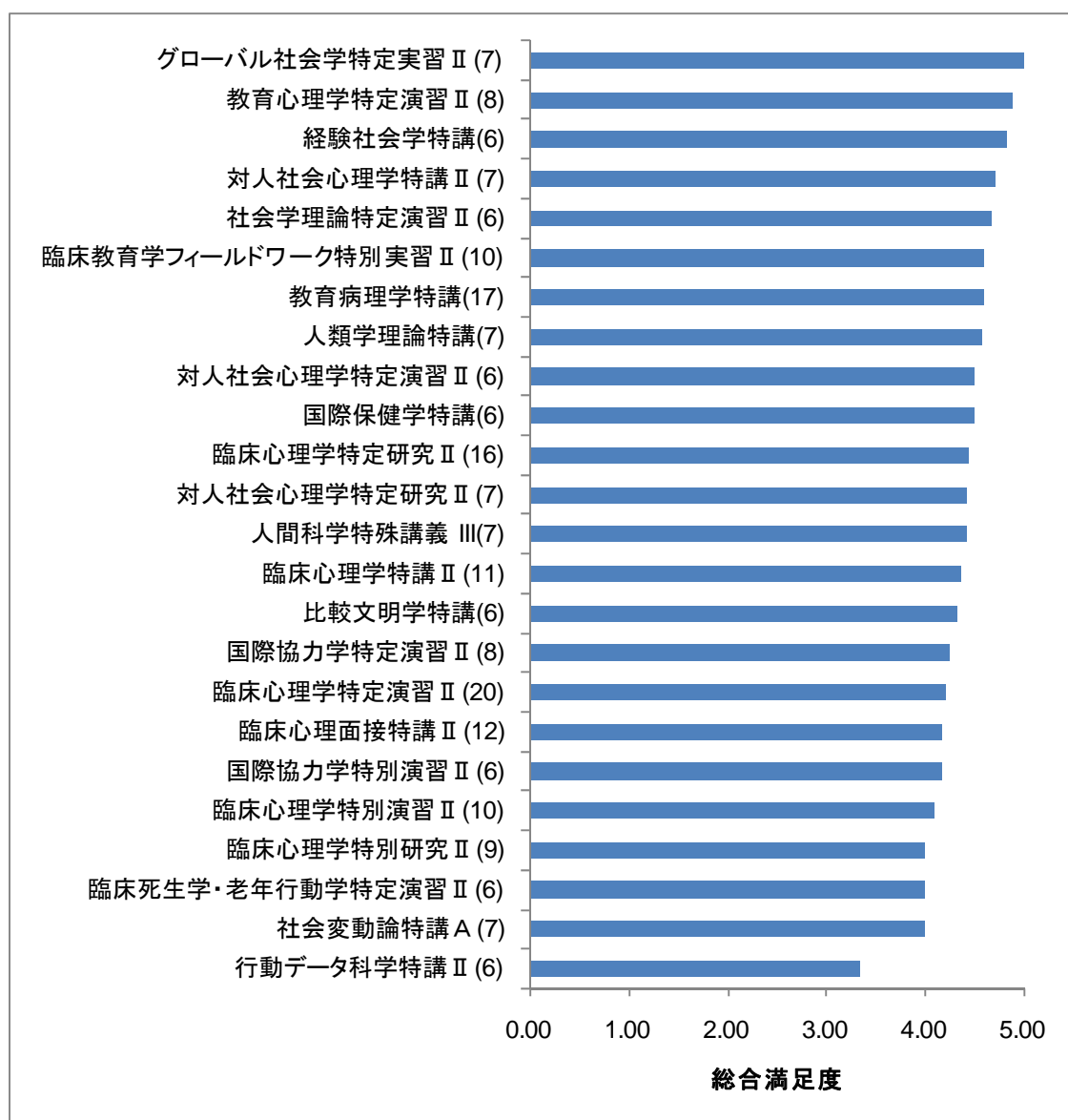


図 13に、大学院科目（受講者が5名以上の科目のみ）の満足度を示す。いずれの科目も満足度が高い。これは、学部生に比べて学術的関心がより明確になっている大学院生が自分の関心に沿った科目を選択し、それらの科目のほとんどの場合少人数で実施されていることによると思われる。